

科目名		会計監査論（Auditing）							
学 年	専 攻	単 位 数	必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
2K	経営情報工学専攻	2 単位	選択	講義	前期	45 時間			
担 当 教 員		【常勤】 准教授 田川 晋也							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達目標レベル	会計監査は、企業の資金調達と密接な関係がある。企業が公表している財務諸表が信頼できるものであれば、投資家をはじめとする利害関係者は、安心して投資意思決定ができるようになるからである。本講義では、このような会計監査について、制度、手続き、基準について十分な知識の習得を目指す。								
到達目標（評価項目）	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
到達目標①	会社法の制度趣旨について説明できる。	会社法の制度趣旨について概ね説明できる。	会社法の制度趣旨について大抵説明できる。	会社法の制度趣旨についてほぼ説明できない。					
到達目標②	会社法の主要な基本用語について説明できる。	会社法の主要な基本用語について概ね説明できる。	会社法の主要な基本用語について大抵説明できる。	会社法の主要な基本用語についてほぼ説明できない。					
到達目標③	会社法の主要な判例について説明できる。	会社法の主要な判例について概ね説明できる。	会社法の主要な判例について大抵説明できる。	会社法の主要な判例についてほぼ説明できない。					
学習・教育到達目標		(C) ①	JABEE基準1(2)		(d)-(1)				
達 成 度 評 価（％）									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	—	80		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】		◎		◎					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】		○		○					
汎用的技能 【 】		○		○					
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	財務会計論Ⅰ、財務会計論Ⅱ、会社法
教科書	「監査論入門」長吉眞一他(中央経済社)
補助教材等	プリント(演習問題)
学 習 上 の 留 意 点	
講義は、輪読、プレゼンテーション方式で実施する。発表する学生は、毎回、パワーポイントを作成すること。学生は、毎回、授業に出席する際は、その回で学習する分野の事前学習をしておくこと。自分の発表担当以外の個所もしっかりテキストを読み準備をしておくこと。	
担 当 教 員 か ら の メ ャ セ ー ジ	
専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 監査の必要性 2 監査全体の流れ 3 監査基準	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・法定監査制度の説明ができる。 ・監査業務の全体像を理解できる。 ・監査の必要性を理解できる。 ・財務諸表監査の機能と限界が理解できる。 ・監査基準の内容を説明できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4			
5	4 リスク・アプローチ監査 5 内部統制 6 監査計画	・リスク・アプローチの考え方を理解できる。 ・監査リスクと監査上の重要性の関係について説明できる。 ・内部統制の構造について説明できる。 ・監査計画について説明できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
6			
7			
8	7 監査の実施 8 監査結果の報告 9 監査の品質管理	・リスク対応手続きについて理解できる。 ・監査調査について内容が理解できる。 ・監査報告書の記載内容について理解できる。 ・監査業務の質を合理的に確保するための取り組みについて説明できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
9			
10			
11	10 内部統制監査 11 公監査 12 監査の周辺業務	・内部統制監査の意義と目的を理解できる。 ・四半期レビューと保証業務について理解できる。 ・公的組織が受けている監査の概要を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
12			
13			
14	期 末 試 験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間